



語り：時制現象・ナラティブ現在 3

サンフランシスコ州立大学／国立国語研究所

南 雅彦

時制現象をどう捉えるか

- 樋口・大橋(2004)

- 「日本語の小説にも、時制を統一した文体は存在する。登場人物や主人公が語り手という場合には主人公の発話時というのが意識されることもあり、時制が一定となりやすい。意図的に**夕形**を並べ、淡々としたリアリズムで客観的な語り口を狙うこともあるだろう。」(p. 124)

- これは何を意味しているのか？

- 現在**という時制が何を意味し、**過去**という時制が何を意味しているのか？英語の**仮定法過去**や**仮定法過去完了**を思い出してみたい。

時制現象をどう捉えるか

- 機能的変異の視点から：機能的変異 レジスター（言語使用域）の問題
 - カギ括弧を用いず、地の文並みにする。
- ナラティブ現在
 - 現在形は時制ばかりでなく事実に近い、それゆえに身近に感じ、感情移入が容易になる。たとえば、推理小説などを読んでいて「足音が近づいてきた」という過去形ではそれほど臨場感がないのに、「足音が近づいてくる」という現在形を使うと手に汗握る臨場感が増すのである。こうした語りでの現在形の使用を「**ナラティブ現在**」と呼ぶ。

語りとは：ナラティブ現在



- 語り
- 語り手
- 語るという行為
- 会話

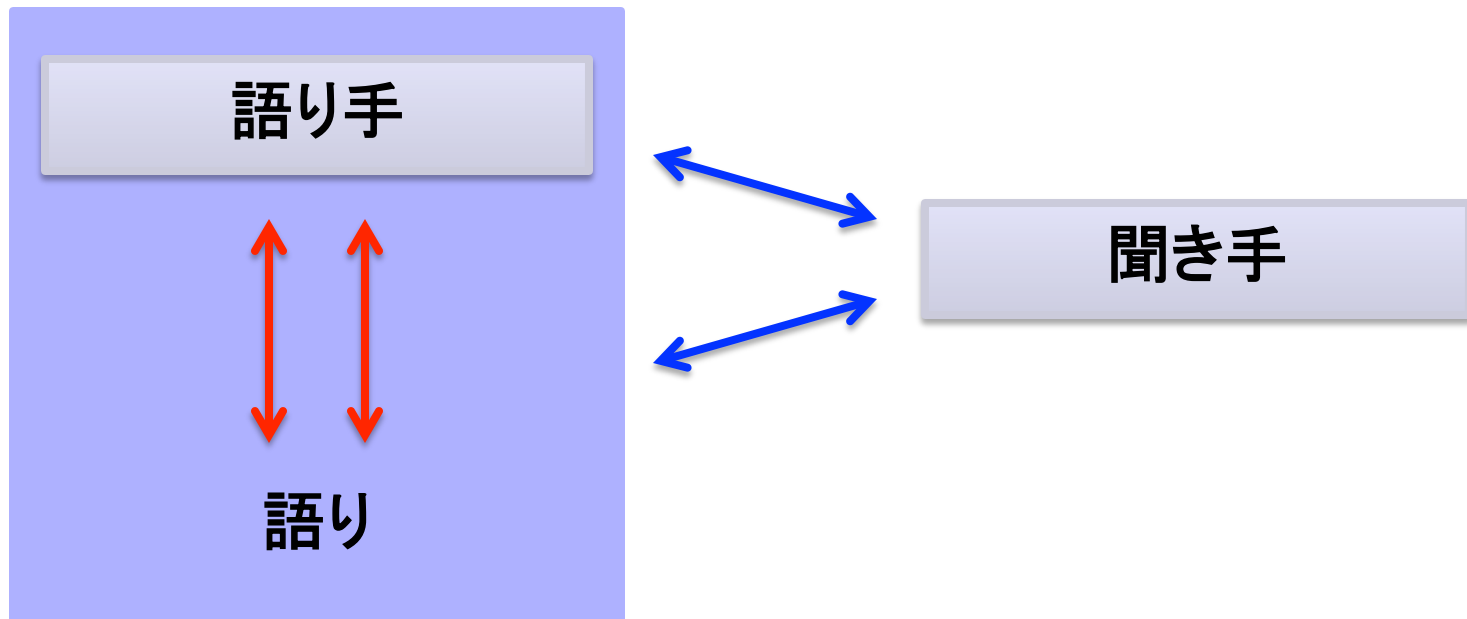
語りとは：ナラティブ現在

- 語り手・ナラティブ（語り）・聞き手の三角関係：語り手が語りと聞き手の双方に対してニュートラルな状況（Toolan, M. J., 1988, p. 2)



語りとは：ナラティブ現在

- 語り手・ナラティブ(語り)・聞き手の三角関係：語り手が語りに没頭している状況 (Toolan, M. J., 1988, p. 2)



Labovの内容(機能)分析

要旨・導入部 (Abstract)	話の最初に、何についての話なのかを聞き手に伝える
設定・方向づけ (Orientation)	誰が、いつ、どこで、何を(していたか)
出来事 (Complicating Action)	起きた事件は具体的に何なのか
評価 (Evaluation)	話し手の気持ちはどうだったのか、話の意味は何なのか
解決・結果 (Resolution/Result)	事件が最高潮を迎えた後、結局どうなったのか
結語・終結部 (Coda)	話の最後の締めくくりの言葉

幼い頃の思い出

- 成人話者が語る体験談(独り語り)

ほんというと、あのう、あんまり、覚えてないんです、ほとんど(評価)。

それで、えっと、覚えてるのが、小学校2年生ぐらいだったんですけど(設定)、

あのう、おなじクラスの男の子が死んじゃったんです(要旨)。

だから、そのことだけは、すごくはっきり覚えてますね(評価)。

あのう、わりとクラスのなかでも、なんとなくひかれるっていうか(設定:評価)、

あのう、気になる存在の男の子で(設定:評価)。

幼い頃の思い出

- 成人話者が語る体験談(独り語り)
で、夏休みが終わって(設定)、
えっと、始業式ですね(設定)、
行ったら(出来事)、
あのう、教室へこう入って行きましたら(出来事:設定)、
みんな、普段となんか違うんですね(設定:評価)。
様子が、なんかざわざわとしてて(設定:評価)。

幼い頃の思い出

- 成人話者が語る体験談(独り語り)で、いきなり友達が、えっと、あっ、名前忘れてしまいましたね(設定:評価)、
「誰それ君が、死んじゃったんだよ」って(引用節:直接話法)。
「へえ」って(引用節:直接話法)。
あのを、まだ小さくて(評価)、
そういう経験は、初めてですしねえ(評価)。

幼い頃の思い出

- 成人話者が語る体験談(独り語り)で、いきなり友達が、えっと、あっ、名前忘れね(設定:評価)、
「誰それ君が、死んじゃったんだよ」「へえ」って(引用節:直接話法)。
あのう、まだ小さくて(評価)、
そういう経験は、初めてですしねえ(評価)。

「です・ます」表現の付随しない直接話法で語られている部分は、語り手が「過去に埋没しながら語りを行ないたい」という動機による。

小学校2年生として発話した物語のなかの自分を見つめながら内省し、また同時に聞き手と対峙している現在の自分を表現している。

幼い頃の思い出

- 成人話者が語る体験談(独り語り)
で、なんか、えっと、海開きが始まった日に(設定)、
「海へ飛び込んでいって」(引用節:直接話法)、
あのう、「心臓麻痺で死んじゃったんだよ」とか言って
(引用節:直接話法)。
その時に、初めてくらい死ぬっていう認識ができたくらいだっ
た(評価)、
と思うんです(心理的補足)。
(以下省略)

幼い頃の思い出

● 成人話者が語る体験談(独り語り)
で、なんか、えっと、海開きが始まった日に(設定)、
「海へ飛び込んでいって」(引用節:直接話法)、
あのう、「心臓麻痺で死んじゃったんだよ」とか言って
(引用節:直接話法)。

その時に、初めてくらい死ぬっていう認識ができたぐらいだった(評価)、

と思うんです(心理的補足)。
(以下省略)

心理的補足は語調を和らげる婉曲表現であり、聞き手への配慮・視点の動きを表わしている。

視点



- Bakhtin, M.

- 言語表現には常に複雑な複数の視点を代表する「声」が響いている。直接話法として表現することの動機が何であるか。もとの発話を正確に再生することは実際不可能であり、直接話法も含めて引用部分は、話者が創作したもの。話者の「声」、視点、発想法を表現するひとつの手段。

視点



- **「です・ます」表現**は単なる丁寧・敬語表現にとどまらない
 - **「です・ます」表現**が語り手の視点の動きを如実に表現。
 - 語り手が聞き手から一定の距離を保ちながら、自分の語る物語のなかに埋没するか、あるいは語り手が聞き手に近い位置から過去を描写するのか、といった語り手と聞き手の遠近間を**「です・ます」**が伝達する役割を果たす。

視点

- **「です・ます」表現**は単なる丁寧・敬語表現にとどまらない
 - **「です・ます」表現**の付随しない直接話法で語られている部分は、語り手が「過去に埋没しながら語りを行ないたい」という動機によると考えられるが、同時にこの引用（直接話法）で語られている友達との会話が、実際の発話を正確に、そして忠実に再生・再現しているとは限らず、聞き手に対する心理的効果を狙った語り手の創作であるかもしれない。



視点

- 「**です・ます**」表現は単なる丁寧・敬語表現にとどまらない
 - 語りとは必ずしも意識的にねつ造するものではないが過去の出来事に関して「これが真実なのだ」と語り手が信ずる記憶に肉付けをすることで、整合性ある世界を構築すること。